



平成31年2月7日
海上保安庁総務部人事課

平成30年度人事院総裁賞について

標記について、当庁から下記の職員が、平成30年度人事院総裁賞(個人部門)を受賞することとなりました。

なお、授与式は2月14日(木)午前11時30分より明治記念館(東京都港区元赤坂)にて行われ、その後、受賞者は天皇皇后両陛下の御接見を賜る予定です。

記

1 人事院総裁賞の趣旨

人事院総裁賞は多年にわたる不断の努力や国民生活の向上への顕著な功績等により、公務の信頼を高めることに寄与したと認められる職員(一般職の国家公務員)又は職域を顕彰するもの。(昭和63年創設、今回31回目)

2 受賞者

「個人部門」

第一管区海上保安本部小樽海上保安部巡視船ほろべつ 金澤 正信(50歳)

「顕彰理由」

現役最高齢潜士として、長年にわたり数多くの救助活動に従事するとともに、後進の指導・育成にも積極的に取り組み、海上保安庁のみならず他機関の潜士の模範となるなど、公務の信頼の確保に大きく貢献

※その他詳細は添付顕彰理由参照

3 参考

別途、人事院において広報されております。

個人部門 金澤 正信

《海上保安庁潜水士として通算28年にわたり救助活動等に尽力》

氏名・官職・略歴等	組織の概要等
<p>かなざわ まさのぶ 金澤 正信</p> <p>昭和43年4月3日生（50歳） 国土交通省 海上保安庁 第一管区海上保安本部 小樽海上保安部 巡視船ほろべつ 機関士/潜水士 公安(二)3級</p> <p>平成 1. 4 海上保安学校学生 採用 平成 2. 10 海上保安大学校研修科潜水技術課程 修了 平成 2. 11 第八管区海上保安本部境海上保安部巡視船おき機関士補/潜水士 平成 7. 3 第一管区海上保安本部函館海上保安部巡視船びほろ機関士補/潜水士 平成17. 4 第一管区海上保安本部函館航空基地機動救難士 平成19. 4 第一管区海上保安本部釧路海上保安部巡視船えりも機関士/潜水士 平成26. 3 現職</p> <p>表彰等 平成10. 5 海上保安庁長官表彰及び海上保安勲功章（潜水士活動実績） 平成21. 7 永年勤続（20年）国土交通大臣表彰</p>	<p>海上保安庁は国土交通省の外局であり、全国を11の海上保安管区に分けて、領海警備、海洋の秩序維持、海難の救助、海上防災、海洋環境の保全、海洋調査、海上交通の安全確保等の海上保安業務に従事している。</p> <p>それぞれの管区には管区海上保安本部があり、その下には、各地に海上保安（監）部、海上保安署、海上交通センター、航空基地などが置かれている。</p> <p>潜水士は、各部署に配置された巡視船艇の中で特に指定された巡視船に配置されており、巡視船の通常航海中は航海当直や各種運航業務に従事し、基地停泊中においては、潜水技術の維持のため各種訓練を実施するほか、資機材整備等を行い、海難事故等発生の際は、現場に出動し、救助活動を行う。</p>

顕彰理由

氏は、28年の永きにわたり海上保安庁の潜水士として、主に北海道管内の巡視船や航空基地に勤務し、その間延べ461件の救助活動に従事するとともに、訓練を合わせた総潜水時間は2,184時間に達する豊富な経験を有している。北海道の厳しい勤務環境の下、本年で50歳となっても現役最高齢潜水士として救助活動を行うとともに、後輩の指導・育成にも精力的に取り組む、精神的、肉体的に極めて苦勞の多い業務について、平素から心身を壮健に保ち、精励、以って、国民生活の安全確保に多大な貢献をし、公務の信頼の確保と向上に寄与している。

理由詳細

1 職務の重要性、代表的な対応事案

氏は、海洋国家たる日本の海を守る海上保安官の一人として、現在、小樽海上保安部所属巡視船ほろべつに勤務し、潜水士として海難発生時における捜索救助活動等に取り組むほか、巡視船乗組員として、海上における犯罪の監視取締り等にも従事している。

これまで従事した代表的な対応事案として、平成8年11月に発生した島牧村白糸岬沖合岩場での釣り人孤立海難において、夜間悪天候の中、ヘリコプターに同乗の上、現場へ降下し、困難な吊上げ作業を成功させて3名を救助した。また、平成23年3月に発生した東日本大震災においては、被災地である宮城県、岩手県の沿岸において、延べ85日間、潜水時間166時間もの潜水捜索活動を行った結果、3名を発見し揚収するなど、人命救助活動に尽力した功績は極めて顕著である。

2 職務の特殊性・勤務環境

海難救助活動は、24時間365日出動体制であるため、巡視船の停泊中における当直待機はもちろんのこと、公休等であっても、事案が発生すれば緊急に対応するなど、極度の緊張感が常に強いられる職務である。また、一管区の管轄区域である北海道は、冬期間における気象・海象環境が極めて厳しく、道東方面の釧路にあつては気温が氷点下20度以下、海水温度0度を下回る過酷な条件となる中においても、潜水訓練や救助活動を行い、日々業務に精励している。

3 特殊技能、勤勉性

海上保安庁の潜水士は、人命及び船舶等を安全、確実に救助するため、特殊な環境下において、瞬時の状況判断能力や高い知識技能、加えて強い精神力が求められる。そのような中、同人は、強い責任感の下、日夜自己研鑽を怠らず、幾多の危険度の高い困難な海難救助現場に出動するも、これまで緊急事態に陥ったことは皆無である。

また、北海道警察潜水士、近隣の自治体消防水難救助隊潜水士達との業務交流も活発に行なっていることから、海難現場において、当庁潜水士だけではなく他の救助機関等からも安全管理、捜索手法、救助技術の助言を求められる機会も多くあり、さらには、北海道消防学校の依頼を受けて同校水難救助課程で、捜索・救助及び安全管理についての講師を依頼されるなど、様々な場所で活躍しており、勤勉性においても申し分ない存在である。

4 公務の信頼の確保・向上

海上保安庁の潜水士は、その道のスペシャリストとして、民間ダイバーや他の救助機関の潜水士が活動できない環境下であっても、救助活動を遂行しなければならない。ほとんどの潜水士が30代半ばで引退する中、50歳となっても心身の鍛錬を怠らず、豊富な現場経験、卓越した知識技能及び旺盛な責任感の下、通算28年、潜水時間累計2,184時間にわたり無事故で現役を続けていることは、他の潜水士の模範であり、公務の信頼の確保と向上に大きく寄与している。

個人部門 金澤 正信

【近年の活動状況】

- 1 平成29年8月27日発生 小樽市銭函海岸行方不明者(3名)捜索
(北海道警察、札幌市消防局との合同潜水捜索により3名を発見)

【合同潜水捜索前のブリーフィング状況】



金澤潜水士

【行方不明者の捜索状況】



金澤潜水士

2 関係機関（警察・消防）との合同氷下潜水訓練（札幌市茨戸川）
（気温：氷点下5度 水温：1.7度 氷厚：約30センチ）

【結氷した川面に開穴】



【夜間潜水捜索訓練】



金澤潜水士

3 小樽港での潜水捜索訓練（小樽市消防本部等との合同訓練）

【北海道消防学校水難救助課程への指導】



【厳冬期における岸壁からの入水訓練】

